東京理科大学ワンダーフォーゲル部 OB 会 50 周年記念イベント
山岳リレー班山行報告
日時：2009 年 7 月 19 日～7 月 24 日
場所：栂池自然園～扇沢
メンバー：藤原　豊(s46)、鈴木　等(s48)、和久井　清(s49)

ワンゲル OB 会 50 周年記念イベントのうち、山岳リレー班の第一陣として上記山域を受け持つこととなった。メンバーは昨今はやりの表現でいえばアラ還だが、山小屋の混雑の恐怖からテント泊による縦走とした。

山行前日の 7 月 18 日はしじま山荘にて富谷会員(s35)、和田会員(s35)、小沢会員(s50)、小沢夫人、香川会員(s62)、高橋会員(h2)と共に盛大な出陣前夜祭で盛り上がった。

＜7 月 19 日＞

栂池自然園(10:25)－天狗原(11:50)－乗鞍岳(13:09)－白馬大池幕営地 C1(13:40)

昨日からの雨模様が続く中、冨谷さん、香川さんのサポートでゴンドラ「イブ」の白樺中間駅まで送って頂き栂の森で栂池ロープウェイに乗継ぎいよいよ山行スタート地点である栂池自然園に到着。

自然園から本日の目的地である白馬大池まではほぼ 600m の上りであるが、コースは危険な個所もなく、ただひたすら歩くだけである。

自然園の事務所に山行届（計画書）を提出し、小雨の中を出発。天狗原までは背丈を少し越えるような灌木の間の上りだが、アブがまとわりついて困る。天狗原を過ぎるころから風雨が強まり雨はビシバシぶつかって来るし、風は冬でもあまり経験したことが無い程の強風で油断すると体が倒されそうになる。天狗原から乗鞍にかけては大きな岩と雪渓を辿るルートとなっており、風雨をさえぎるものはない。乗鞍のピークであるケルンも早々にやり過ごし一路白馬大池山荘へ。全員しっかりした雨具を着用したにもかかわらず未曾有の風雨のため内部まで濡れてようやく山荘へ飛び込む。休憩の後、テント設営にかかるが件の風雨のためかなり手こずってようやく設営完了。明日の天候を心配しながら、濡れたものを乾かす努力をしながら就寝。

＜7 月 20 日＞

C1(6:09)－小蓮華山(9:00)－白馬岳(9:55)－鑓ケ岳(13:17)－鑓温泉分岐(13:43)－天狗平幕営地 C2(14:11)

昨日の雨は夜半に止み行動開始時点では雲の切れ間から青空が覗いている。しかし、風は相変わらず強く、帽子を押さえるのが大変である。テント場からは小蓮華がすぐそこに見えるがなかなか近づかない。気持ちの良い稜線を進み、振り返ると昨日歩き始めた栂池自然園の建物や木道がよく見え、時折麓まで見えることもある。小蓮華のピークは 2007 年 7 月の中越沖地震の結果ロープが張ってあり近づけず。三国境で雪倉、朝日への道を分け、左下に大雪渓を上る行列を見ながら白馬岳へ向かう。白馬頂上は山座同定盤、三角点、標

識すべての周りに人が群がっており、記念写真撮影のみで白馬山荘へ下る。山荘では食糧計画外のラーメンを注文（1,000 円/杯）。空は強風によるレンズ雲の虹が出て幻想的な雰囲気。また、南西はるかに剣、立山がくっきり見えその続きの南方には黒部五郎、三俣蓮華、水晶、そして今回の山行の終点近くである鹿島槍ヶ岳まで望まれる。かなり遠い。村営頂上宿舎から稜線沿いに進み杓子はトラバースし、本日最後の鑓のピークへ向かう。思ったより長いザレを上りつめた鑓のピークは簡単な標識があるだけで、人気なし。鑓温泉分岐でこれまで一緒に行動していた温泉チーム（和田さん、小沢さん夫妻）と別れる。天狗のテント場は兎に角水がうまい。すぐ目の前の雪渓から豊富な冷たい水が湧き出ている。

昨日濡れたものを広げて乾かす。今日は濡れていないのでゆっくり寝られそう。

＜7 月 21 日＞

沈澱 C3

4 時頃に目覚めるが、外は雨。不帰の難所を通過するにはいやな状態。結局 8 時過ぎになっても雨が上がらずガスも濃いため、予備日を使うことにした。1 日ラジオを聞いて過ごす。

＜7 月 22 日＞

C3(7:15)－不帰キレット(8:40)－不帰Ⅱ峰北峰(10:17)－唐松岳(11:23)－五竜山荘幕営地 C4(14:50)

天気は快方に向かっているがガスが濃いため、天狗山荘の外来休憩所で待機。1 時間程度出発予定時刻を過ぎたがいよいよ今回のメーン区間である不帰の険に向かって行動開始。途中天狗の頭手前では今山行はじめての雷鳥のつがいに遭遇。オスは真っ赤な鶏冠を振りながら必死でメスの後をついていく。ガスも晴れてきて本日の行動の幸先を示しているようである。天狗の大下りは一部クサリがあるが、落石しないよう慎重に下る。不帰キレットから不帰Ⅰ峰は普通の登山道。不帰Ⅱ峰の上りはクサリの連続で緊張するが、丁寧にたどれば問題は無い。少々クサリが多過ぎるきらいもある。不帰Ⅱ峰北峰ピーク直下で 10 時 5 分、46 年振りの日食を観る。もちろん部分日食だが薄く掛った雲を通して丁度よく見ることができた。唐松岳頂上では再びガスが出てきて何も見えず。唐松山荘では休憩所は利用料 300 円也と言われて外でラーメンを作って食べる。唐松から五竜山荘へ向かうコースは地図には表現されていないが最低鞍部まではこれまたクサリの連続である。不帰を通過した後では辟易する。五竜のテント場は稜線上にあり水は 100 円/リットル。

＜7 月 23 日＞

C4(5:50)－五竜岳(7:00)－八峰キレット小屋(11:10)－鹿島槍北峰(13:35)－南峰(14:18)－冷池山荘 C5(16:00)

前日の天気予報では曇りプラスガスであったが夜明けと共にガスは消え目の前の五竜岳の大きな山容が迫ってくる。絶好の行動日和である。五竜の上りはやはりクサリの連続。五竜の頂上からは遠いと思っていた剣、立山がグンと近く迫っている。五竜の下りもクサリの連続。八峰あるかどうかは分からないが小ピークが繰り返されクサリ伝いのルートである。八峰キレット小屋はおいしいレストランがあるという話だったがわれわれの到着時

は開いておらず残念。アルファ米の赤飯を作って食べる。結構うまい。
キレットから鹿島槍への上りは今山行最後の難所である。やはりクサリとハシゴの連続で緊張を強いられる。クサリから解放されてトラバースになると鹿島槍北峰と南峰の鞍部。残念ながらガスが出てきて他の山々は何も見えず。南峰から冷池はこれまでとは打って変わったハイウェイだが足元に敷かれた石が歩きにくいのと疲れのため遅々として進まず。
　冷池では予備日の計画どおり山荘泊まりとした。地元の中学生の団体(数十名)及び予約客のため、乾燥室をあてがわれるが 8 畳間位の広さにわれわれ 3 名だけで寝られた。翌日の朝食は弁当にしてもらう。
＜7 月 24 日＞
　C5(5:28)－爺ヶ岳(6:59)－種池山荘(7:31)－扇沢出会(10:32)
　さあ、今山行の最終日である。天気はあいにくの霧雨とガス。ほとんど視界が無い中、特に危ない箇所も無いルートをひたすら足元を見て前へ進む。爺ヶ岳のピークもとりあえず証拠写真のみ。種池山荘は向って左側が新築されていたが休憩所と喫煙所が一緒になっており非喫煙者にはつらい。種池山荘を出るとあとはただただ下るのみ。
　10 時半過ぎようやく車をデポしておいた扇沢出会に到着。山行の無事な終了にほっとする。学生時代の合宿の終わり程ではないがソバが食べたい、カツ丼が食べたいなどの欲望が続出。
＜総括＞
　アラ還 3 名のテント泊による 4 泊（プラス予備日 1 日）縦走ということで、装備、食糧など極力軽量化を図り何とか計画の遂行ができた。反省としては、テント泊の場合、コースタイムは 7 時間以内とすべきである。休憩を入れるとコースタイムプラス 1 時間程度の行動時間になるため、これ以上長いと疲れが溜まる一方である。そういうことから考えると 3 日目の沈澱は疲労回復に相当貢献したとも言える。
西日本方面では近年希な悪天候、集中豪雨などが発生し、その一部が中部山岳にも流れて来たようである。そんな中、初日の強風豪雨、3 日目の沈澱はあったもののそれ以外は幸いにして登山日和に恵まれ、ほぼ計画通りの行動ができた。
8 月中旬に計画されている第二陣の幸運、好天を祈念する。
　下山後の新聞報道によると天狗の大下り付近で 58 才の二人が行方不明となり沢筋で発見、救助とのこと。天狗の大下りから不帰への取り付きはガスっていると解りづらいと感じていた。天狗山荘から鹿島槍ヶ岳までのルートは全体的に岩登り要素が多く中高年は要注意です。

(2009.08.02 記　藤原)